



Q 市立学校の写真です。  
①～④の学校名を教えてください。

①



②



③



④



【第451回解答】

松ぼっくり (松かさ)

■応募締切 / 1月15日(金)必着

■あて先 / ☎783-8501

南国市大埔甲2301

南国市企画課「親子クイズ」係

■賞品 / 正解者の中から抽選で、5名に

図書カード(1,000円)を贈呈

★応募総数 / 43通

★正解率 / 91%

【第451回当選者】

伊藤 淑 さん (大埔甲)

宗我部心音 さん (大埔乙)

井上嵯知子 さん (後免町)

井上 幸雄 さん (稲生)

井上 美恵 さん (緑ヶ丘)

親子クイズは、広報委員が毎月順番に  
考えています。

市民からのお便り

先月の親子クイズを親子で考えました。こういうクイズ、私は好きです♪

人権と共生の時代⑨②

人権教育シリーズ

もし、部落外の人が、出産のために病院に行こうとしたところ、たまたま通りかかった「部落」で陣痛が起こって出産したら、生まれた子どもは「部落民」になるのかどうか。

野中広務・辛淑玉著「差別と日本人」の中に出てくる問いである。

部落差別の成り立ちとは多様だと考えられるが、この本の中に出てくる答えは、「部落民であることも、部落民でないこともある」というものであった。なぜかという点、それを決めるのは差別をする側だからだ。そこに合理的な判断基準はない。人々は、自分に都合のよい基準をもっともらしく設けて差別を繰り返す、と著者は訴える。

中学校の歴史教科書を見てみると、幕末のころの日本の総人口は推定で約3200万人であり、その内訳は、百姓が約85%、武士が約7%となっている。全体から見れば、ごく一部である武士の生活を支えたのは大多数の百姓からの年貢だった。当時は、今のようには科学も発達しておらず、十分な収穫が得られないことも多く、食糧を十分に確保することが難しかったと思われる。重い年貢に、当然、百姓は不満をもったことであろう。

「誤った優越感」

幕府は、百姓の不満をそらすために身分制度を利用した。「自分たちよりも下の身分の者がいる。それを思えば我慢しなければ...」。人は、自分よりも強い者から存在価値を否定されたり、劣等感をもたされたりしたとき、自己の劣等感を払拭するために、自分より弱い者を差別することで傷ついた心のバランスをとろうとする。

ここに、部落差別をはじめとするあらゆる差別を支える心のメカニズムがあるのではないだろうか。あの人よりはましな暮らしをしている、この人よりはましな学校に行っているなど、私たちの心の中にも、誤った優越感がないかどうか、チェックしていく必要があるかもしれない。

\*このシリーズは、私たち一人ひとりが自分を大切に、互いに認め合って、かけがえのない人生を幸せに生きるために、日々の暮らしの中で、人権について多様な視点で考えることを目的にしています。

※お問い合わせは  
人権啓発広報委員会  
(☎880・6569) まで